

経済トピックスと解説

《解説》・・・笑顔で相続する・させるにはどんな準備をすれば良いかについて考えてみます。

- (1) ご自身の財産を遺族に残すのだから、みんな喜んで受け取ってくれるに違いない、と誰も考えます。しかし現実には、相続が“争族”になってしまう例は枚挙に遑(いとま)がありません。皆さんの周りで“争族”になっているケースはどのくらいありますか？
- (2) 本当に、悲しいことです。何故このようなことが起こるのでしょうか。財産を出す人(すなわち被相続人)が事前(生前)に十分な準備をしておけば、多くの“争族”が「笑顔の相続」となったのではないかと考えられます。この問題は、2つに分けて考えることができます。第一は、思惑違いに起因する問題。第二は金銭的な問題でしょう。
- (3) 第一の問題について、少し掘り下げてみましょう。すなわち相続人達は、事にあたって悲しみの中で、当然いろいろ考えることとなります。それが一人一人異なるのは、これもしごく当然と言わねばなりません。この思惑の違いがぶつかればそこに争いが起こることとなります。これに対処する方法は、唯一つ、事前(生前)に被相続人から、ことに触れ、考え方を相続人たちに伝えておくことではないでしょうか。私が言いたいのは、書いたものではなく、直接にお話をされることが大切ではないかということです。例えば「私は、できるだけ公平にしたいので、法定相続分割に従って財産分与したい。」とか、「私は、長男夫婦がよく面倒を見てくれたし、屋敷が分割されることは避けたいので、長男に多くを継がせたいと考えている。その代り他の人には を受け取ってもらうつもりだ。」といった類の話を生前に話題にしておくことが、大切と考えます。
- (4) 生前に、被相続人の考え方を伝えていたとしても、やはり、全員への確認のため、また法律的にもこれらを書き留めておくことが重要です。それが遺言書ということになります。遺言書は遺産相続に関して遺族間の争いを避けるという意味で、とても重要なものと考えます。しかし世間には人の死については忌み嫌う傾向があります。勿論、これはやむを得ないことですが、このために、日本では遺言書のない事例が多いのです。英語には“testament”「相続財産の処分に関する遺言」という意味の言葉があります。“last word”「最後の言葉」と区別しています。異なる言葉が存在するという事は、きちっと区別して考えることができるということの意味しています。これに対して、残念ながら、日本語は、いや日本人の感性ではどうもこのところが曖昧になっていますね。
- (5) 遺言(いごん)証書には、自筆証書、公正証書、秘密証書の三種類があります。自筆証書は、最も手軽ですが、内容が漏れるあるいは所在が不明になるなどのリスクがあります。この点、手間と費用がかかっても、公証役場に行って作成してもらう公正証書が安心です。まずは、自筆証書を作成し、それを基に機会を見て公正証書を作成するという手順が、もっとも入りやすい手順かと思えます。遺言書の詳細については、私のホームページを参照してください。
- (6) 次に、第二の問題、金銭にからむトラブルについて考えてみます。「誰かさんは私より多くの財産を受け取った。」といった類の争いです。これは、まずは財産価値(価額)の評価というのは意外に難しく、このために「多い、少ない」といった争いの基になっています。次いで、寄与度とか生前贈与のような、どの範囲までを相続財産とするかといった問題があります。さらに、相続税が発生する場



サホロ 天人峡羽衣の滝

合には、支払う税額が絡んできますので、事がさらに複雑になります。相続人たちが、自力でこれらの問題を無事に“笑顔で”解決することはとても難しいことのように思います。

(7)相続税について一言申し添えますと、相続税が生じるのは相続全体の5%程度といわれています。95%は相続税がかからない相続なのです。よく、相続や遺言書の話をする時、「私のところは、そんなに財産がありませんから相続税はかからないし問題ないです。」といわれる方が多いのです。いや、むしろそのようなケースの方が、準備不足のためか、却ってトラブルが起きやすいのです。実はこの金銭的トラブルについても、遺言書による被相続人のはっきりした意思表示があれば、“争族”にならないという例が多いのです。くれぐれも事前の準備を怠りなきよう、注意されることをお勧めします。

株式状況と解説

サブプライム楽観論後退

(11月9日 日経朝刊)

「日経平均大幅続落 アジア株も連鎖」 株式相場の下げが止まらない。8日の東京株式市場で日経平均は大幅に続落、先週末からの5日間で1,098円下げた。米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)にからむ損失が拡大するとの見方が再び台頭。楽観論は影を潜め、実体経済への影響を懸念する声が強まった。アジア株も軒並み急落、株安連鎖が続いている。

《解説》

(1)今年に入って表面化してきたサブプライムローン問題は、少しずつ実態を現わしてきました。すでに9月号でも詳しく解説しましたので、その内容については皆さんもご承知と思います。

(2)この問題の発祥の地である米国では、メリルリンチについてシティーグループ、バンク・オブ・アメリカという大手金融機関が次々と大幅損失を発表しています。いずれも7~9月期の利益が吹っ飛ばす程度の損失となりました。まだまだ今後も、損失は膨らむと予想する向きも多いようです。しかし不透明な部分も多く、憶測を呼んで世界的に株価が低迷しています。この憶測が現実のものとなるのか、単に憶測で終わるのか、今後の株価を予想する上での大きな分岐点となります。

(3)しかし、このことは世界中の誰もわかりません。今は憶測をある程度織り込んだ株価となっていると考えられます。従って、今後ほどほどの損失拡大であれば、株価はすでに織り込み済みと考えてよいでしょう。前述の大手の金融機関が破たんというようなことにならなければ、株価のさらなる低下は限定的と思われる。長期運用が基本スタンスであれば、ここはじっと我慢の時と考えます。サブプライム問題もいずれ(数か月か半年かまたは数年かは分かりませんが)解決して世界経済は再び上向くものと予想されます。じっと、その時を待つのが上策と考えます。

なお、この記述は株式等の売買をお勧めするものではありません。売買の判断はご本人でなさってください。

お知らせ

次回セミナーのお知らせ

テーマ：ファイナンシャル・プランナーが提案する相続のポイント

※笑顔で相続する・させるには、どんな準備をすればよいか ※

日時：12月1日 10:00より11:45

場所：つくば国際会議場 404号 (4階)

参加費：1家族500円 (Tel,Fax,ホームページ)などでご予約下さい)

以上



サホロ 天人峡の紅葉

このレポートの記述は、株式、保険等の売買を推奨するものではありません。株式、保険等の売買は自己の責任において行って下さるようお願いいたします。

ご意見、不明点など御座いましたらお気軽に連絡下さい。

なお複写、転載はご遠慮下さい

発行人：スズタカFPオフィス 代表 鈴木隆志 茨城県つくば市東新井4-2メゾンヴェールつくば612号

Tel,Fax:029-861-0778 携帯:090-4423-9147 E-mail:suzu@suzutaka.org URL:http://www.suzutaka.org